

第41回 「個性ある図書館」展示

～小学校の英語教育～



年々海外からの渡航者や居住者が増加するに伴い、大人に限らず子どもたちも海外の人達に触れる機会が増えました。グローバル化社会、国際化社会に対応し、異文化を理解するため、また国際感覚の基礎を養うために、小学校からの英語教育が重要視されています。

展示期間：2018年 2月24日（土）～2018年 4月26日（木）
展示場所：鷺宮図書館 5階 個性展示コーナー

中野区立鷺宮図書館
中野区鷺宮 3-22-5 Tel 03-3337-1044

近年の小学校英語教育の流れ

海外に旅行や留学した日本人は、他の国の人達との英語のコミュニケーション力の差に「自分達は中学・高校と6年間英語を学んできたのに英語がしゃべれない」と嘆いています。他の国の人達は文法や発音が結構でたらめでも、どんどんコミュニケーションをとります。そのような実情を踏まえ、日本の英語教育も早期化し、小学校からの英語教育が約10年前に始まりました。

2008年度：小学校5・6年生を対象に、外国語活動として始まりました。前年に告示された**(平成20年度)** 学習指導要領の外国語活動「第1目標」は以下のとおりであり、コミュニケーション力の育成を重要視しています。

外国語を通じて、言葉や文化について体験的理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

2011年度：小学校5・6年生において、年間35単位時間の外国語活動が必修化されました。**(平成23年度)** 必修とは必ず学校で行わなければならない科目です。しかし国語や数学などの教科と違い、決まった教科書などはありません。

2018年度：2018年度（平成30年度）から2020年度に向けて、段階的に小学校中学年**(平成30年度)**（3・4年）での外国語活動及び高学年（5・6年）での外国語教科が導入されます。それに伴い、昨年（2017年）新学習指導要領が告示され、外国語活動・外国語教科の「第1目標」は以下のとおりとなり、より具体的な目標に変わりました。

<小学校外国語活動目標>

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

<小学校外国語教科活動目標>

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。



2020年度：小学校中学年で外国語活動、高学年での外国語教科の完全実施が始まります。

出典：『新編 小学校英語教育法入門』樋口 忠彦、加賀田 哲也、泉 恵美子、衣笠 知子／編著 研究社
『英語ショック 小学校英語が日本を変える』森 貞孝／著 幻冬舎

小学校英語教育の現状

文部科学省による 2016 年度（平成 28 年度）の「英語教育実施状況調査」においては、小学校の 92.3%の学級が外国語活動を実施し、また 7.7%の学級が教科として外国語を実施しています。この 10 年で小学校での英語教育はとても身近なものになってきました。

英語指導者

主に学級担任、ALT (Assistant Language Teacher) や AET (Assistant English Teacher) と呼ばれる外国語を母国語とする外国語指導助手、さらに特別非常勤講師（外国生活経験者や外国語に堪能な外部講師）、日本人や外国人の地域ボランティアなど多岐に渡っています。多くは担任単独での指導、又は担任と ALT や AET とのチームティーチングによる授業が多く行われています。チームティーチングは担任を含む複数の指導者が役割を分担し、協力しながら指導する方式で、お互いの弱みを補っています。一般的に見ると学級担任は教育や児童理解に長けていますが、英語能力や指導力が不十分な場合が多いようです。逆に担任以外の指導者の英語能力は高いが教育や児童理解が十分でない場合や、小学校での外国語教育に対する理解や指導力が十分でない場合があります。チームティーチングは、基本的に担任が作成した指導計画に基づいて授業が行われます。外国語指導助手は授業内容や教材作成などの補助をし、授業では発音や文法などについての助言、生徒との英会話、母国の文化についての情報の提供を行います。

活動内容

外国語活動は主にパソコンなどの ICT (Information Communication Technology〈情報通信技術〉) 機材を使用している場合が多いようです。音声を中心に「聞く」「話す」ことをとても大切にしています。外国語学習は「楽しい学習」が大前提です。英語に親しんでもらうために、歌、クイズ、ゲーム、または絵本の読み聞かせ等を利用しています。自治体や各学校で活動内容は様々ですが、英語でのあいさつ、自己紹介から始まり、興味のあるトピックについての質疑応答、または地域の外国人へのインタビューなども取り入れている学校もあります。この様な外国の人達との交流により、お互いの文化を紹介しあうことで、異文化の理解につながり、さらにコミュニケーション能力も高まっているようです。様々な英語活動を通して、英語は「面白い」「楽しい」と感じる子どもたちも増えています。

2018 年度（平成 30 年度）4 月から、段階的に小学校 5・6 年の英語が教科となり、成績評価対象となります。小学校 3・4 年の英語活動で「英語は楽しい」と感じていた子どもたちが、英語が教科となることでどう感じるのか、まだまだ不透明な部分が多い中、日本の英語教育が大きな転換期を迎えようとしています。

出典：『新編 小学校英語教育法入門』樋口 忠彦、加賀田 哲也、泉 恵美子、衣笠 知子／編著 研究社
『英語ショック 小学校英語が日本を変える』森 貞孝／著 幻冬舎
『小学校からの英語教育をどうするか』柳瀬 陽介、小泉 清裕／著 岩波書店
『変えよう日本の学校』ピーター・ハウレット／著 ハヌル・ハウレット／監修・訳 柏嶋舎

おすすめ展示図書



『変えよう!日本の学校』

ピーター・ハウレット/著 柏艸舎

請求記号370.4 ハ

日本を愛し憂えるカナダ人英語教師が、日本の英語教育のみならず、教育全体に警鐘をならし、そして自分の力で行動する人間を育てるエンパワーメント教育を提唱する。



『小学校からの英語教育をどうするか』

柳瀬 陽介、小泉 清裕/著 岩波書店

請求記号375.8 ヤ

本当に必要とされる力を育む英語の授業とはどういうものか?現在学校で行われている英語教育を冷静に分析し、小学校のみならず、中高の英語教育にも何が必要か提言している。



『英語ショック』

森 貞孝/著 幻冬舎

請求記号375.8 モ

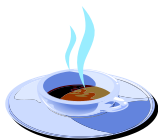
2020年度に完全実施が予定されている小学校の英語教育。英会話のできる子どもこそ、これからの日本に必要な人材であることを提言。家庭でどんな支援をすべきかなどを語る。

展示図書リスト

このリストのほかにも多数取り揃えております。ぜひ展示コーナーへお立ち寄りください。

書名	著者名	出版社	請求記号	出版年
英語に強くなる小学校選び 2018	朝日新聞出版	朝日新聞出版	376.8工	2017
クラスがまとまる！男女が仲良くなれる！ 小学校コミュニケーションゲーム100	加藤 拓由	明治図書出版	375.8カ	2015
主体的な学びをめざす小学校英語教育	金森 強/編著	教育出版	375.8シ	2017
これからの英語教育の話をしよう	藤原 康弘/編	ひつじ書房	375.8コ	2017
小学校の英語教育	行廣 泰三	開拓社	375.8コ	2014
生きる力を育む初等英語教育	吉田 真理子/編著	朝日出版	375.8イ	2015
「困り」解消！小学校英語ハンドブック	多田 孝志/監修	ジアース教育新社	378コ	2017
これならできる！！小学校英語ハンドブック	影浦 攻/監修	新興出版社啓林館	375.8コ	2017
そこが知りたい！小学校の英語指導 50の疑問	加藤 幸次	黎明書房	375.8カ	2016
先生のための授業で1番よく使う英会話	山崎 祐一	Jリサーチ出版	375.8ヤ	2017
小学校で習った言葉「さか上がり」「行ってきます」 を英語で言えますか？	守 誠	サンリオ	837.4モ	2018
新編小学校英語教育法入門	樋口 忠彦/編著	研究社	375.8シ	2017

COFFEE BREAK



ガイドドリーディング

アメリカでは英語を話せない・書けない・読めない移民の子どもたちに向けて、絵本を使いながら話し合い、考えながら読む「ガイドドリーディング」という英語教育法があるそうです。

- ①読む前に本のイラストだけを始めから最後まで見せる。
- ②表紙の絵と本の題名の関係をじっくり観察させる。
- ③新しい単語やキーワードを読む前に紹介する。
- ④読んでいる時に本文の意味がつかめない時には、イラストや前後の文章をもう一度読み推測させる。知っている単語で置き換えてみるのも良い。
- ⑤辞書を引くのは最後の手段。

子どもたちが英語で考え、自分の意見を言えるようになるためにとっても効果的で、学校だけでなく、家庭で英語を教えるのにも良い手段の一つだそうです。

出典：『アメリカの小学校では絵本で英語を教えている』リーパー・すみ子/著

小学校・英語教育について調べるには

図書館の資料の調べ方、インターネットを活用した調べ方についてご紹介します。

1 【情報探索のキーワード】 効率的な情報検索には、適切なキーワードが必要です。

グローバル化	外国語教育	モジュール学習
国際コミュニケーション	英語指導	インターナショナルスクール
ネイティブスピーカー	ティームティーチング	ALT

2 【基本的な情報源】 辞書・事典類でテーマについて基本的な情報を入手しましょう。

資料情報	請求記号	配架場所
現代用語の基礎知識 2017	031 ゲ	6階
英語教育用語辞典	R830.7 工	中央図書館 参考室

◎中央図書館参考室では、育児に関する統計や白書を所蔵しています。

資料情報	分類
学校基本統計 平成28年度 東京都総務局統計部人口統計課／編	J5 D 16
学校基本調査報告書 平成29年度 生涯学習政策局政策課調査統計企画室／編	R370.5 ガ17

3 【図書を探す】

●館内所蔵を探す

◎ テーマの棚に行って探す

図書館の本は主題ごとに棚に並んでいるので、請求記号の最初の数字を参考にして同じ主題の本を探すことができます。

分類	分野	分類	分野	分類	分野
830	英語	375.8	英語教育	361.45	コミュニケーション
837	英会話	376.9	インターナショナル	370.3	帰国子女

◎ 中野区立図書館利用者用検索機（OPAC）で探す。

資料のタイトル、著者名、出版社名などから、中野区立図書館所蔵の資料を検索できます。

中野区立図書館のHP <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/>

中野区立図書館 HP（携帯版） <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/i/>

●東京都内公立図書館で所蔵されている図書を探す。

◎「東京都立図書館統合検索」 <http://www.library.metro.tokyo.jp/>

● 国内で刊行されている図書を探す。

◎「国立国会図書館サーチ」 <http://www.ndl.go.jp/>

◎「Books.or.jp」 <http://www.books.or.jp/>

国内で発行された入手可能な書籍が検索できます。出版社のホームページやオンライン書店へのリンクもあります。

4【オンラインデータベースで調べる】

中央図書館では、参考資料コーナーの利用者開放インターネット端末で、以下のデータベースをご利用いただけます。

データベース	収録期間と主な内容
官報情報検索サービス	1947年5月3日から当日までの官報記事の検索
日経テレコン21	1975年からの日経4紙（経済・産業・金融・流通）の新聞全文検索（収録範囲は媒体によって異なります。1981年9月までは見出しと一部記事の抄録のみ。）、企業情報、人事情報の検索が可能です。
聞蔵Ⅱビジュアル	1879年から1999年までの朝日新聞紙面イメージ 1985年から当日までの新聞の記事 ほか
MAGAZINE PLUS	一般誌・総合誌の雑誌記事検索や学术论文
WHO PLUS	歴史上の人物から現代の人物まで約32万人のプロフィール
D1-Law.com	判例情報、法律の改廃履歴、法律判例文献情報 など

5【インターネットを利用する】

●中野区の子育て情報を知る

◎中野区子育てナビ <https://tokyo-nakano-city.mamafre.jp/>

◎暮らしのガイド「子ども・教育」>「学習・遊び場・活動」

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/guide/003/006/index.html>

●小学校の英語教育について調べる

◎文部科学省

<http://www.mext.go.jp/>

◎東京都教育委員会

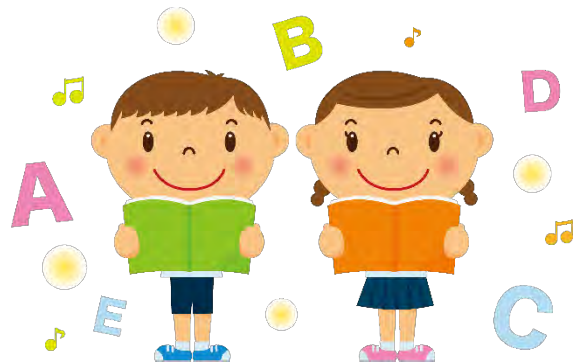
<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>

◎ベネッセ教育情報サイト

<http://www.benesse.jp/>

◎一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

<http://www.shogai-soken.or.jp/>



近隣諸国の英語教育

近隣諸国では低学年も高学年も外国語は教科であり、日本より10年以上も前に外国語を本格的に導入しています。授業時間も多く、国によっては都市部では小学校1年から導入しているところもあります。さらに、小学校や中学校から、遅くとも高校から、第2外国語（英語以外）を必修科目として、生徒達に多様な外国語に触れる機会が提供されています。

中国

- 2001年に導入され、小学校3年から開始。
- 指導目標はコミュニケーション能力の基礎力の育成と英語圏の文化の理解、自国文化と外国文化の違いの理解。
- 週4日以上で3・4年は短時間（30分）授業中心。
5・6年は短時間・長時間（40分）授業中心。長時間授業は週2日以上。
- 指導者は主として専科教員。



韓国

- 1997年に導入され、小学校3年から開始。
- 英語学習に対する興味・関心の高揚および日常生活で使用する基礎的な英語を理解し、表現する能力の育成。
- 3・4年は週2コマ、5・6年は週3コマ（1コマは45分）。
- 指導者は学級担任、ただし、専科教員や外国人教員が徐々に増加。



台湾

- 2001年に導入され、小学校3年から開始。
- 指導目標は基本的なコミュニケーション能力の育成および英語学習に対する興味・関心の高揚、自国文化と外国文化の理解。
- 週2コマ（1コマ40分）。
- 指導者は専科教員中心（都市部では専科教員が多く、非都市部では少ない）。

